

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助演習（Ⅰ）	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 本科目は、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 精神保健福祉士として必要な、最低限の相談援助の知識・技術を習得する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	精神保健福祉士の倫理調べ学習
	2	基本的なコミュニケーション	教科書第1章読む
	3	基本的なコミュニケーション	コミュニケーション調べ学習
	4	自己覚知	教科書第2章第1節読む
	5	自己覚知	教科書第2章第2節読む
	6	基本的な面接技術の習得	教科書第2章第6節読む
	7	グループダイナミクス活用技術	教科書第6章読む
	8	情報の収集・整理・伝達の技術の習得	教科書第2章第5節読む
9	課題の発見・分析・解決の技術の習得	教科書第2章第4節読む	
10	記録の技術の習得	教科書第3章第1節・第2節読む	
11	地域福祉の基盤整備（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）	教科書第5章読む	
12	地域福祉の基盤整備（地域アセスメント）	教科書第5章読む	
13	地域福祉の基盤整備（地域福祉の計画）	教科書第4章読む	
14	地域福祉の基盤整備（ネットワークング）	教科書第7章第1節～第3節読む	
15	地域福祉の基盤整備（社会資源の活用・調整・開発）	教科書第7章第4節～第7節読む	
16	地域福祉の基盤整備（サービス評価）	教科書第7章第8節読む	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時にテキストについては説明する。		
	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
	評価 (1) ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態（50%） (2) レポート・課題の提出（50%） (3) 厚生労働省の規定により4/5の出席を単位取得の前提とする		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉援助演習・精神保健福祉援助実習指導が次のステージ・関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助演習(Ⅱ)	後期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 俊江・-熊谷 晋	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	精神保健福祉士に求められる地域との連携にもとづいた相談援助の知識と技術について、ロールプレイング等をまじえた演習活動を通して、その能力を培っていく。講義は対面授業を基本とするが、コロナウィルスの影響で特例授業(遠隔授業)への切り替えもある。
到達目標	1 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げていく。 2 個人指導並びに集団指導を通じて、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行っていく。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	導入およびオリエンテーション(対面授業)
	2	精神障害者への社会的排除・偏見・歴史①(対面授業)
	3	精神障害者への社会的排除・偏見・歴史②(対面授業)
	4	退院支援、地域移行、地域生活支援①(対面授業)
	5	退院支援、地域移行、地域生活支援②(対面授業)
	6	ピアサポート(対面授業)
	7	精神障害と自殺(対面授業)
	8	ひきこもり支援の現状とシステム(対面授業)
	9	薬物・アルコール依存症者、家族への支援①(対面授業)
	10	薬物・アルコール依存症者、家族への支援②(対面授業)
	11	精神障害者の支援と児童虐待(対面授業)
	12	ライフスパンの支援—教育から就労へ(対面授業)
	13	貧困、低所得、ホームレスと精神障害者(対面授業)
14	精神科リハビリテーション①(対面授業)	
15	精神科リハビリテーション②(対面授業)	
16	まとめ(対面授業)	
時間外学習の内容		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時にテキストについては説明する。	
学びの手立て		
評価	評価は、1)ゼミ活動(ゼミのなかでのディスカッションを含む)への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助演習（Ⅲ）	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	知名孝 takashic@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と後術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	この講義は精神保健福祉士・臨床心理士として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
到達目標	1 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げていく。 2 個人指導並びに集団指導を通じて、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行っていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・基礎知識の確認、演習IIの確認	教科書(1) 第1章を読む
	2	精神障害と危機対応	教科書(1) 第8章事例(5)を読む
	3	インテーク面接から契約	教科書第5章読む
	4	インテーク面接から契約(実技)	教科書第9章 事例9を読む
	5	アセスメントとプランニング	教科書第9章 事例10を読む
	6	アセスメントとプランニング(グループワーク)	教科書第9章 事例11を読む
	7	支援の実施	教科書第9章 事例12・13を読む
8	モニタリング、効果測定と支援の評価	教科書第7章 第4節を読む	
9	終結とアフターケア	配付資料1を読んでおく	
10	アウトリーチによる支援	教科書第7章第2節を読む	
11	ケアマネジメント手法による支援	ケアマネジメントの資料を読む	
12	チームアプローチ	教科書第8章 事例7を読んでおく	
13	ネットワーキング(事例から見る必要性)	教科書第7章第7節を読んでおく	
14	社会資源の活用・調整・開発	教科書第7章第5節・第6節を読む	
15	社会資源の活用・調整・開発(事業所設立と運営についての事例から)	教科書第9章 事例17・20を読む	
16	まとめ	課題1を終了して次回提出	
テキスト・参考文献・資料など	(1) 『新・精神保健福祉士養成講座第8巻 精神保健福祉援助演習 基礎・専門』(中央法規出版) (2) 『精神科リハビリテーション・ケースブック』野田文隆、寺田久子著 医学書院 (3) その他必要に応じて提示する		
学びの手立て	講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
評価	(1) ゼミへの参加態度 (50%) (2) 課題・テスト (50%) (3) 厚生労働省の規定により4/5の出席を単位取得の前提とする		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉援助実習指導・実習が次のステージ・関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助実習指導（Ⅰ）	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 精神保健福祉援助実習の意義、そして精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解の上に精神保健福祉実習に備えていくための演習科目である。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ① 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 ② 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③ 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・基礎知識の確認、これまでの演習および講義科目の確認	実習に臨むにあたってのレポート
	2	精神保健福祉実習の意義と目的	教科書第1章を読む
	3	精神保健医療福祉の現状の理解①	精神科病院についての調べ学習
	4	精神保健医療福祉の現状の理解②	相談支援事業所についての調べ学習
	5	精神保健医療福祉の現状の理解③	関連行政部署についての調べ学習
	6	実習施設の基本的理解①	教科書第2章読む
	7	実習施設の基本的理解②	教科書第2章に関するレポート
	8	現場体験学習及び見学実習①	実習先についての調べ学習
学びの実践	9	現場体験学習及び見学実習②	実習先の聞き取り調査まとめ
	10	現場体験学習及び見学実習③	当事者・家族聞き取り調査まとめ
	11	現場体験学習及び見学実習（発表・報告）①	発表・報告準備
	12	現場体験学習及び見学実習（発表・報告）②	発表・報告準備
	13	過去の実習事例の検討 ①	配付資料（べてるの家）を読む
	14	過去の実習事例の検討 ②	配付資料（アルコール依存症）読む
	15	実習担当者からの講話	30年度実習報告書を読む
	16	まとめ	30年度実習報告書を読む
テキスト・参考文献・資料など (1) 『新・精神保健福祉士養成講座第9巻 精神保健風刺援助実習指導・実習』（中央法規出版） (2) その他必要に応じて提示する			
学びの手立て ケース検討や調べ学習、その発表などへの参加は評価の対象としており、これらゼミの中の活動から積極的に学んでもらいたい。			
評価 (1) 授業態度＝演習ワークやディスカッションへの参加（50%） (2) レポートや課題の提出（50%） (3) 厚生労働省の規定により4/5以上の出席を単位取得の前提とする			

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉援助実習指導・実習が次のステージ・関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助実習指導（Ⅱ）	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	4年	知名孝 takashic@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	精神障害者のおかれる現状を把握したうえで、精神保健福祉実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質について掘り下げていく。	この講義は精神保健福祉士・臨床心理士として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。

到達目標
1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する
2 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
3 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。
4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
5 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習先で必要とされる専門的知識と技術1	実習配属先の調べ学習
	2	2 実習先で必要とされる専門的知識と技術2	教科書第3章第5節読む
	3	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務1	倫理綱領読んでくる
	4	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務2	倫理綱領読んでくる
	5	実習オリエンテーション(1)	実習のしおりを読んでくる
	6	プライバシー保護と守秘義務の理解	守秘義務について調べ学習
	7	実習計画の作成1	教科書「実習計画書」を読む
	8	実習計画の作成2	前年度の実習計画書を読む
	9	実習計画の作成3	実習計画書作成・提出
	10	実習ノートと記録について1	教科書「実習記録」読む
	11	実習ノートと記録について2	教科書「実習日誌」読む
	12	実習事前訪問オリエンテーション(2)	教科書「事前訪問」を読んでくる
	13	スーパービジョンの活用について	教科書「スーパービジョン」読む
	14	実習配属担当者の講話	事前の配付資料読む
15	実習配属担当者の講話	事前の配付資料読む	
16	まとめ・実習にむけて	前年度実習報告書読む	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	(1) 『新・精神保健福祉士養成講座第9巻 精神保健福祉援助実習指導・実習』（中央法規出版） (2) その他必要に応じて提示する

学びの実践	学びの手立て
	ケース検討や調べ学習、その発表などへの参加は評価の対象としており、これらゼミの中の活動から積極的に学んでもらいたい。

学びの実践	評価
	(1) 授業態度(演習ワークやディスカッションへの参加) (30%) (2) レポートやその他課題(70%) (3) 厚生労働省の規定により4/5の出席を単位取得の前提とする

学びの継続	次のステージ・関連科目
	精神保健福祉援助実習指導・実習が次のステージ・関連科目となる。

科目基本情報	科目名 精神保健福祉援助実習指導（Ⅲ）	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 知名 孝	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 知名孝 takashic@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 精神障害者のおかれる現状を把握したうえで、精神保健福祉実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質について掘り下げていく。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する 2 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	

学びの準備	到達目標 1 精神保健福祉援助実習の意義について理解する 2 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 3 精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。 4 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 5 具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習記録をふまえた実習体験のとらえ直し	実習日誌熟読
	2	実習記録をふまえた実習体験のとらえ直し1	日誌からテーマの設定(課題)
	3	実習報告	実習報告の準備・事前資料読む
	4	実習報告	実習報告の準備・事前資料読む
	5	実習報告	実習報告の準備・事前資料読む
	6	実習報告	実習報告の準備・事前資料読む
	7	実習総括レポートの作成	実習総括レポート作成
	8	実習総括レポートの作成	実習総括レポート作成
	9	実習総括レポートの作成	実習総括レポート作成
	10	実習報告会にむけて実習テーマ設定と振り返り	実習報告作成
	11	実習報告会にむけて実習テーマ設定と振り返り	実習報告作成
	12	実習報告会	実習報告会準備
	13	実習報告会	実習報告会準備
	14	実習報告会ふり返し	実習報告会ふり返し資料作成
	15	実習の評価・全体総括	実習報告会ふり返し資料作成
16	養成過程全体のまとめ	養成過程を通じた学びを作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など (1) 『新・精神保健福祉士養成講座第9巻 精神保健福祉援助実習指導・実習』（中央法規出版より出版予定） (2) その他必要に応じて提示する
-------	---

学びの実践	学びの手立て ケース検討や調べ学習、その発表などへの参加は評価の対象としており、これらゼミの中の活動から積極的に学んでもらいた
-------	--

学びの実践	評価 (1) 授業態度(演習ワークやディスカッションへの参加) (30%) (2) レポートやその他課題(70%) (3) 厚生労働省の規定により4/5の出席を単位取得の前提とする
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 この演習科目をもって養成課程を終了する。次のステージは卒後の現場での活躍である。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝・伊井 統章・山川 ゆかり	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害(者)とどのように向き合うべきかを考えていく講義である。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めて行く。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・「精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ」の確認(特例授業)	「Ⅰ」のノートの確認
	2	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(精神科医療相談室・病棟)(特例授業)	教科書第1章第5章
3	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(精神科医療相談室・病棟)(特例授業)	教科書第1章第5章	
4	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(デイナイトケア)(特例授業)	教科書第1章第5章	
5	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(認知症支援)(特例授業)	教科書第1章第5章	
6	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(認知症支援)(特例授業)	教科書第1章第5章	
7	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(認知症支援)(特例授業)	教科書第1章第5章	
8	医療機関における精神科リハビリテーションの展開(訪問看護)(特例授業)	教科書第1章第5章	
9	地域移行の対象及び支援体制(相談支援の働き)(特例授業)	教科書2第3章	
10	地域移行の対象及び支援体制(就労支援と地域生活支援)(特例授業)	教科書2第3章	
11	地域移行の対象及び支援体制(生活訓練と地域生活支援)(特例授業)	教科書2第3章	
12	地域移行の対象及び支援体制(うつ病当事者・家族への支援)(特例授業)	教科書2第3章	
13	地域移行の対象及び支援体制(引きこもり・生活困窮者への支援)(特例授業)	教科書2第3章	
14	地域移行の対象及び支援体制(子ども・発達障害・学校支援)(特例授業)	教科書2第3章	
15	地域移行の対象及び支援体制(さまざまな分野における支援)(特例授業)	教科書2第3章	
16	まとめ・試験(特例授業)		
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ・Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
	評価 ①講義への出席は学則規定により4/5以上を評価の条件とする。 ②課題の提出(55%) ③講義中のディスカッション等への参加・講義中の課題提出状況(40%) ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容(5%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成のための演習・実習指導および実習が次のステージ・関連科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 涼子	2年	人間福祉学科社会福祉専攻 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害(者)とどのように向き合うべきかを考えていく講義です。精神障害を抱える人達とその家族を支えていく福祉職にとって基本的な視点を与える講義となります。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めていきます。	この講義は精神保健福祉士としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
到達目標	①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	
	2	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 (総論)	教科書1第5章を読む
	3	医療機関における精神科リハビリテーションの展開 (総論)	教科書1第5章を読む
	4	精神障害者支援の実践モデル	教科書1第6章を読む
	5	精神障害者支援の実践モデル	教科書1第6章を読む
	6	相談援助の過程及び対象との援助関係	配付資料を読む
	7	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章を読む
8	相談援助活動のための面接技術・スーパービジョンとコンサルテーション	教科書1第8章、第9章を読む	
9	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章を読む	
10	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章を読む	
11	地域を基盤にした相談援助の主体と対象(病院実践の視点から)	教科書2第4章を読む	
12	地域を基盤にした相談援助の主体と対象(病院実践の視点から)	教科書2第4章を読む	
13	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方(病院実践の視点から)	教科書2第5章を読む	
14	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方(病院実践の視点から)	教科書2第5章を読む	
15	講義のまとめ	配付資料を読む	
16	試験	試験・課題の準備	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ・Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
学びの手立て	講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
評価	①講義への出席は学則規定により2/3以上を評価の条件とする。 ②課題の提出(40%) ③講義中のディスカッション等への参加状況(20%) ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容(40%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。 次のステージ・関連科目
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸留 将人 (8)、-安村 勤 (8)	2年	人間福祉学科社会福祉専攻 知名孝	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害(者)とどのように向き合うべきかを考えていく講義です。精神障害を抱える人達とその家族を支えていく福祉職にとって基本的な視点を与える講義となります。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めていきます。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	履修ガイドを読んでおく
	2	相談援助活動の展開	教科書2第1章を読む
	3	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書2第2章を読む
	4	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章を読む
	5	地域移行の対象及び支援体制	教科書2第3章を読む
	6	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章を読む
	7	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書2第4章を読む
	8	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章を読む
9	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	教科書2第5章を読む	
10	精神障害者のマネジメント	教科書2第6章を読む	
11	精神障害者のマネジメント	教科書2第6章を読む	
12	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章を読む	
13	地域を基盤にした支援とネットワーク	教科書2第7章を読む	
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	教科書2第8章を読む	
15	講義のまとめ	まとめの資料を読んでおく	
16	試験	試験・課題の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ・Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編集 中法規出版		
	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
	評価 ①講義への出席は学則規定により2/3以上を評価の条件とする。 ②課題の提出 (40%) ③講義中のディスカッション等への参加状況 (20%) ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (40%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。 次のステージ・関連科目
-------	--

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
	学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>	
	評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは、mahiga@okiu.ac.jpにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる	
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる	
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる	
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる	
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む	
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる	
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む	
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる		
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む		
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる		
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む		
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる		
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる		
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む		
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる		
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。		
	学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>		
	評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる
	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる
	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる
	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる
	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む
	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる
	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。	
	学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>	
	評価	※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。

※ポリシーとの関連性

現場を重視した実践的教育を通して、福祉分野の中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク演習	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。問い合わせは各教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。</p> <p>②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。</p> <p>③ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>本演習では、ソーシャルワーカーが常に立ち戻る基本を学ぶ。専門用語の意味を頭で理解するだけでなく、実感を伴って理解するために、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す仲間と一緒に学びを深めていこう。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助の知識と技術の基本を理解し、説明することができる。</p> <p>②特に自己覚知、コミュニケーション技術、面接技術の基本を理解し、活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～</td> <td>ソーシャルワークとは何か調べる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ソーシャルワークの目的と使命</td> <td>目的と使命を調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ソーシャルワークの価値規範と倫理</td> <td>価値規範と倫理について調べる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己覚知① 自己理解</td> <td>自己覚知について調べる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自己覚知② 他者理解</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術</td> <td>コミュニケーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用</td> <td>面接技術について調べる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング</td> <td>展開過程について調べる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理</td> <td>記録について調べる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループダイナミクスの活用① グループワークの構成</td> <td>グループダイナミクスを調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程</td> <td>課題に取り組む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション</td> <td>プレゼンテーションについて調べる</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめと振り返り</td> <td>各自の学びを評価し共有する</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる	2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる	3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる	4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる	5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む	6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる	7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む	8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる	9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む	10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる	11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む	12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる	13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる	14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む	15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる	16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	オリエンテーション～本科目の目的及び他の科目との関連性を理解する～	ソーシャルワークとは何か調べる																																																		
2	ソーシャルワークの目的と使命	目的と使命を調べる																																																		
3	ソーシャルワークの価値規範と倫理	価値規範と倫理について調べる																																																		
4	自己覚知① 自己理解	自己覚知について調べる																																																		
5	自己覚知② 他者理解	課題に取り組む																																																		
6	基本的なコミュニケーション技術① 言語的技術	コミュニケーションについて調べる																																																		
7	基本的なコミュニケーション技術② 非言語的技術	課題に取り組む																																																		
8	基本的な面接技術① 面接の構造化、場の設定、ツールの活用	面接技術について調べる																																																		
9	基本的な面接技術② 受容、傾聴、共感等	課題に取り組む																																																		
10	ソーシャルワークの展開過程① ケースの発見、エンゲージメント、アセスメント、プランニング	展開過程について調べる																																																		
11	ソーシャルワークの展開過程② 支援の実施、モニタリング、終結と事後評価、アフターケア	課題に取り組む																																																		
12	ソーシャルワークの記録：支援経過の把握と管理	記録について調べる																																																		
13	グループダイナミクスの活用① グループワークの構成	グループダイナミクスを調べる																																																		
14	グループダイナミクスの活用② グループワークの展開過程	課題に取り組む																																																		
15	プレゼンテーション技術：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション	プレゼンテーションについて調べる																																																		
16	まとめと振り返り	各自の学びを評価し共有する																																																		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：特定の教科書はありません。随時資料を紹介します。</p>																																																			
学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講生が主体的にグループワーク等に参加することで成立する科目である。自ら積極的に学ぶことを心がけよう。なお、本演習は社会福祉士国家試験受験資格関係科目である。他の受験資格関連科目と連動する内容であるため、教員の指導のもと関連科目を履修すること。</p> <p>②学びを深めるために：本演習の理解を深めるために積極的にボランティア活動をしよう。各分野（障害・児童・地域・医療等）で体験することを薦める。</p>																																																			
評価	<p>※評価方法・割合：課題（30%）、レポートの内容（30%）、プログラムへの主体的参加（30%）、受講態度（10%）</p>																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本演習で学んだことを「ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」に活かしていくことを期待する。</p>
-------	--